



お元気ですか！
志村 たかよしです

第736号 2015年3月29日

日本共産党中央区議団

中央区 築地 1-1-1
 電話 3546-5563
 FAX 3546-9570

問題山積。解決の見通しいまだ立たず 破たん寸前！築地市場「移転」計画

豊洲新市場整備費の推移（数字の単位は億円）

項目	2011年2月	2013年1月	2015年3月
建設費	990	1,532	2,752
土壌汚染対策費	586	672	849
その他関連工事費	370	436	424
用地取得費	1,980	1,860	1,859
合計	3,926	4,500	5,884

「しんぶん赤旗」より

区議会予算委員会で、自民党委員から「築地市場『移転』はできませんですかね」という発言がありました。私は「現状では無理というのが現実」と答えました。そう判断するのは次のような理由からです。

財源不足に陥る可能性も

豊洲新市場の整備費は、4年前の試算（3926億円）より、1958億円増えて5884億円に膨らむ見通しであることが明らか

になりました。

都は、新市場の整備費を市場会計保有資金や国庫交付金、築地市場跡地の売却収入（3500億円程度）で調達する計画ですが、財源不足に陥る可能性も浮上しています。

「円滑な市場流通の見通し」なし

豊洲新市場の物流、施設運用の計画には、三菱総研がかかわっています。解決しなければならぬ課題は山積しています。

たとえば「大幅に足らない駐車スペース」「交通整理の責任体制」「週1回程度の低頻度利用の買い出し人用の駐車場」「茶屋機能」「物流の課題（搬入・搬出のあり方、青果部と水産部間の荷の搬送、加工・パッケージ施設と市場機能の連携、徒歩での買い出し客への対応、青果部と水産部の買い回り）」などが未解決のため、円滑な市場流通ができる見通しが立っていないのです。

先行き不透明「千客万来施設」

千客万来施設の事業予定者だった「大和ハウス工業」が辞退しましたが、その理由は「千客万来施設の搬入搬出の道路が青果市場関係者と共用できない」「債務が発生した場合に連帯保証する条件がある」とことごとく言われています。

東卸は「千客万来施設との同時開場」を求めています。都は「来年11月の開場に合うのは難しい」としています。

もう一つの事業予定者「喜代村」は、単独で千客万来施設に出品できる資格を持っていないため、大和ハウスに変わる別の事業者を探しています。辞退した二つの理由を、簡単に解決できるのかは疑問です。

仲卸事務所の場所も未定

現在、仲卸会社の事務所の多くは築地などのまち中にあります。

新市場仲卸店舗の2階は狭いため、「千客万来」施設内に事務所を置きたくても、「千客万来」計

画が混乱しているため、その交渉もできない状態だそうです。

使用料・設備投資額が不明

施設使用料や設備投資額などが明確にならないので、「移転」のメリットや採算性がつかめず、困っている仲卸も少なくありません。

ますます不安が強まる土壌汚染

昨年11月の新市場予定地の地下水モニタリング調査で、ベンゼンは調査場所の48%、ヒ素は74%で検出されと都は発表しました。

基準値以下とは言いながらも、深刻な結果です。

3月9日に開かれた「土壌汚染対策工事と地下水管理に関する協議会」でも、業界委員が舛添知事の「安全宣言」を求めています。が、いまだに出せない状況です。

それは、土壌汚染対策法による2年間のモニタリングを終えて安全性が確かめられていないからです。

交通は大渋滞・大混乱が必至

豊洲新市場が開場したとしても、公共交通機関によるアクセスは、ゆりかもめしかありません。

環状2号線は、築地市場があるため、「市場の中で掘り割りになり地下を通って汐留に至るルート」ができないので「仮設ルート」を使う予定です。

その場合、築地大橋と汐先橋交差点（汐留）間は、市場通り（新大橋通り）を走るため、今でも渋滞が発生している汐先橋交差点の混雑は激しくなるばかりです。

市場通りの大渋滞は、市場周辺の円滑な交通の妨げになり、場外市場周辺や晴海通りの交通にも重大な影響を及ぼすでしょう。

当初の計画通り、環状2号線をトンネルにしておけば、こんなことにならなかったのですが、強引に計画を進めてきたツケがここに来て浮き彫りになっています。

「現在地再整備」しか道はない

今年2月に「守ろう！築地市場

パレード実行委員会」がおこなったアンケートによると、

「豊洲新市場の施設に業者の意見が十分に反映されているか」の間違ったし、「あまり反映されていない」が44%、「全く反映されていない」が44%と「反映されていない」が約9割にのびりました。

「オリンピックのために移転の強行など本末転倒である」と思う業者は、73%にのびりました。

「本当のところ、あなたは築地と豊洲、どちらで営業を続けたいですか」との質問には、「当然、築地！」が49%、「できれば築地」が37%、「できれば豊洲」は5%、「当然、豊洲」は2%でした。

このように、「主役」となるべき仲卸の方たちの不安感を解消できない「移転」計画は破たんしています。

都が、東京五輪に間に合わせようとして、強引に計画を進めようとすれば、問題をさらに深刻化させ、流通面でも実務面でも財政面でも安全面でも破綻の道を歩み出し、市場流通は大混乱を引き起こすでしょう。



築地市場の移転中止を訴える「3・21パレード」参加のみなさん＝しんぶん赤旗より

区の資料によると、水産仲卸は10年度と14年度の4年間で82店舗も廃業しています。「移転」を機に730店舗（15年1月1日現在）のうち300を超える仲卸が廃業を考えているともいいます。

中央区は東京都にたいし「矛盾を深める強引な『移転』計画を中止し、築地での営業を続けながら、市場関係者や都民・消費者、地元自治体と将来の築地市場のあり方について時間をかけてコンセンサスをとるべき」と要求すべきです。

それこそが、行き詰まった豊洲新市場計画への現実的な対応だと考えます。